

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科				
科目名称	社会的養護Ⅱ				授業形態	演習			
科目コード	750167	単位数	1単位	配当学年	3	実務経験教員	○	アクティブラーニング	○
担当教員名	若宮 邦彦							ICT活用	
授業概要	現代社会における社会的養護問題の発生要因を理解し、家庭における養護に欠ける児童や特別な配慮を有する児童の実態を理解することは保育者として不可欠である。本授業の目的は、児童福祉施設(保育所を除く)を利用する児童の日常生活や職員の支援の実際を理解し、「児童の最善の利益」クライアント福利)を保障・実現するために必要な知識・技術を習得することである。また、メゾレベル(家庭・地域)における児童・家族問題を把握し、養護の専門的な知識と技術についての理解を深める。要保護児童対策地域連絡協議会において多問題家族に対するファミリーソーシャルワーク、多機関との連携によるケアマネジメント実践に携わっていた際の内容も授業に取り入れていく。								
関連する科目	社会福祉、社会的養護Ⅰ、子ども家庭福祉の履修が望ましい。履修後は保育実習事前指導を履修が望ましい。								
授業の方法と進め方	適宜、レジュメを配布しテキストを補充、関連付けながらパワーポイントを活用し、授業を展開するとともに社会的養護の臨床実践における具体的な支援内容について講義する。また、社会的養護実践の学術的な根拠(ソーシャルワーク実践等)を講義する。さらにドキュメントDVD鑑賞やグループディスカッションを通じて学びを深め、自らの考えをレポートやプレゼンテーション等で表現する。さらに社会的養護に尽力する専門職の実践を学びながら事例検討のワークショップで専門性の向上へとつなげていく。								
授業計画【第1回】	1. 社会的養護の基本的理解 (1)子どもの最善の利益 (2)生存と発達の保障 (3)アドボカシー 児童福祉と社会的養護の関連を整理し権利擁護の視座に立脚した社会的養護の基本視点を学ぶ。								
授業計画【第2回】	2. 養護問題の背景と捉え方と変遷 社会的養護とは何かという原点なる問いから背景、定義を整理する。社会的養護の歴史の変遷、ニーズを確認する。								
授業計画【第3回】	3. 施設養護の現状 社会的養護の背景と社会情勢、児童福祉施策の変遷と諸相、社会的養護下にいる子どもたちの今日的なニーズと課題についてDVD鑑賞とワークショップにて考察する。								
授業計画【第4回】	4. 施設養護援助実践の基本。 レジデンシャルソーシャルワークの実践事例を参考に、具体的な展開内容を学ぶ。								
授業計画【第5回】	5. 施設における子どもの理解。および施設養護における具体的援助内容。 テキストの事例検討ならびにドキュメントDVDを鑑賞し、施設保育士の実践の概要、専門性を学ぶ。								
授業計画【第6回】	6. アドミッションケアの意義と援助内容。インケアの実際と援助内容。リービングケア、アフターケアの現状と課題 テキストの事例やDVD鑑賞で児童相談所、乳児院、児童養護施設を中心に入所から退所時、退所後の支援のあり方、それにかかわる専門職の概要を学ぶ。								
授業計画【第7回】	7. 自己実現と自立支援、家族支援、親子関係を調整するための援助。 ファミリーソーシャルワークの理念、具体的展開方法、その専門性や課題について学ぶ。								
授業計画【第8回】	8. よりよい処遇をするための連携のあり方 (1) ケアマネジメント理論。 (2) コミュニティケア理論。 施設における実践をメゾレベルにおけるコミュニティソーシャルワークの関連付けながら多職種・関係機関との連携の意義を学ぶ。								
授業の到達目標	1. 児童福祉施設で生活している社会的養護を必要としている子どもへの基本的養護支援内容と方法を学び、専門性を高める。【知識・理解の獲得】 2. 「社会的養護」の理論とスキルを同時に学ぶ。事例検討を取り入れ、ディスカッションやロールプレイ機会を通じ、学生自らが考える力を培う。【コミュニケーションスキルの育成】								
学位授与の方針(DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)								
授業時間外の学習【予習】	施設実習の現場として、各種児童福祉施設の概要や機能について理解するために、毎回の講義前後 30分程度の予習をすること。								
授業時間外の学習【復習】	リアクションペーパーに対するコメント、授業内容をテキスト、配布資料を参考にふりかえりを20分程度すること。								
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーは毎回、コメントを報告する。各種レポート、最終試験は評価後、返却及び解説をする。								
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) 最終試験-50点 2) 小テスト及びレポート-30点 3) ワークショップ参加意欲-20点								
テキスト	1. 『保育と社会的養護』 井村圭壯・相澤譲治編 学文社 その他、適宜プリントを配布する。								
参考書	1. 『児童家庭福祉分析論』 井村圭壯・相澤譲治編 勁草書房								
備考									